

イージーセルフチェック BOOK

～安全に長くお使いいただくために～

トラクタ編



井関農機株式会社

はじめに

この冊子はお客様ご自身で日常点検・整備を行っていただけるよう、作業内容をまとめたものです。

きちんと点検・整備をすることにより、安心してご使用いただくことはもちろん、時期中のトラブルや高額な修理代の発生を減らすことができます。

この冊子はNTA（25～55）トラクタをベースに項目を抜粋しています。機種により項目や各部の位置・形状、部品等が異なりますので、必ずご使用機種の取扱説明書を併せてご利用ください。



新車初期点検1

I. エンジン編

- 1 エンジンオイル1
- 2 エンジンオイルフィルタの交換2
- 3 エアクリーナエレメントの清掃・交換 ..2
- 4 エアクリーナ、
バキューエータバルブの清掃3
- 5 冷却水量の点検・補給3
- 6 ラジエータ本体の洗浄・冷却水の交換 ..4
- 7 不凍液の使いかた4
- 8 ラジエータの清掃5
- 9 燃料フィルタ（エア抜き）.....6
- 10 ファンベルト7
- 11 バッテリー8
- コモンレールエンジンの取り扱い9

II. 本機編

- 1 ミッションオイル10
- 2 ミッションオイルフィルタの交換 ..11
- 3 フロントアクスルのオイル11
- 4 ブレーキペダルの遊び12
- 5 タイヤの空気圧13

III. キャビン仕様編

- 1 エアコンベルト14
- 2 エアコンコンデンサの点検 ..15
- 3 エアコンホース・パイプの点検 ..15
- 4 エアコンフィルタの点検・清掃 ..16

IV. クローラ仕様編

- 1 ゴムクローラの張り調整17
- 2 遊輪・転輪の点検18
- 3 揺動支点部のグリース注入 ..18
- 4 遊輪・転輪スクレーパの
点検と調整19

V. ロータリ編

- 1 ギヤケース20
- 2 グリースの補給22
- 3 注油22
- 4 爪の交換時期22



新車初期点検

アワーメータが50時間になるか、最初のシーズンを終了したときは、必ず新車時の初期点検整備を実施してください。

新車時の初期点検整備はトラクタの耐久性にとって大事な項目ですのでお買いあげ先での点検、整備をおすすめします。



I. エンジン編

1 エンジンオイル

作業前

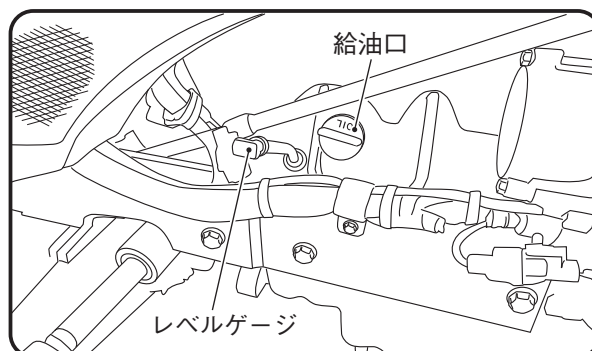
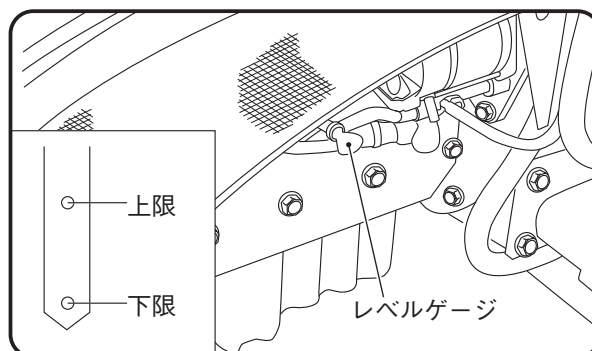
※交換時間はエンジンにより異なります（お手持ちの取扱説明書を参照してください）

■点検・補給

- 1 レベルゲージを抜いて先端をきれいにふき取り、改めて差し込みます。
- 2 再度抜いて、上限と下限の間にオイルレベルがあるかどうかを確認します。
レベルゲージが上限と下限の間にあれば正常です。
- 3 レベルゲージが「下限」以下の場合は、「上限」まで補給してください。

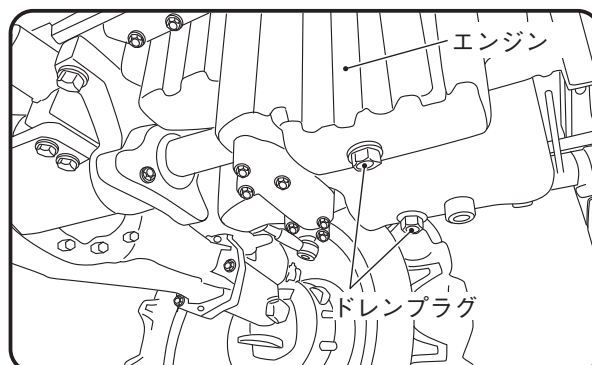
check

- エンジンオイルは上限を超えないようにしてください。
- エンジンオイルは必ず純正オイルを使用してください。



■交換

- 1 ドレンプラグを外してオイルを排出します。
- 2 給油口からエンジンオイルを取扱説明書に基づき規定量入れてください。



2

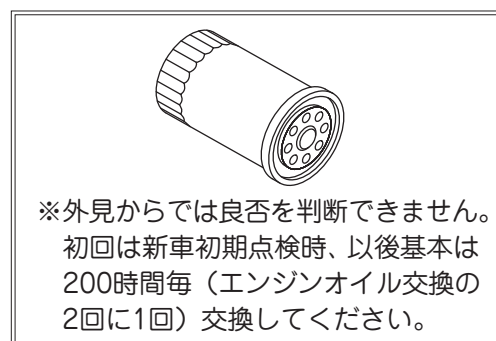
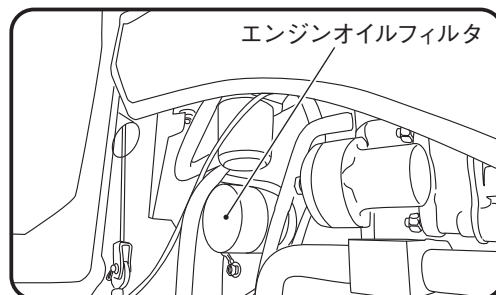
エンジンオイルフィルタの交換

作業前

新車点検時

※新車初期点検以降は搭載エンジンにより異なります。お手持ちの取扱説明書をご参照ください。

- 1 市販のフィルタレンチでオイルフィルタを取り外してください。
- 2 新しいフィルタのOリングにオイルを薄く塗布してから、手で確実にねじ込みます。
- 3 シール面のゴムパッキンが接触してから、約2/3回転、締め付けてください。
- 4 給油口からエンジンオイルを規定量入れてください。
- 5 エンジンを約5分間運転し、エンジンオイル圧力表示に異常表示が出ないことを確認してください。
- 6 エンジンを停止した後、レベルゲージでオイルレベルを確認し、不足していれば給油口からエンジンオイルを「上限」まで補給してください。



3

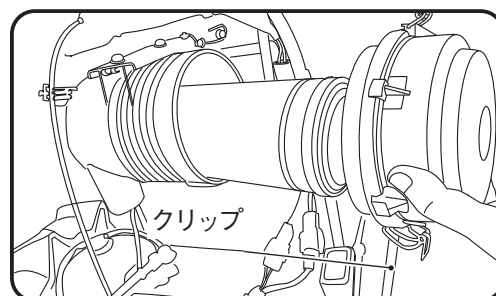
エアクリーナエレメントの清掃・交換

作業前

100時間毎清掃

600時間毎交換

- 1 クリップを外し、エアクリーナ本体からエレメントを取り外します。
- 2 エレメントの清掃は以下の要領で行ってください。
 - 乾いたホコリが付いている場合
エレメントの内側から空気を吹き付けるかまたは、手で軽くたたいてゴミを取り除いてください。
 - 湿ったホコリ、油分等で汚れている場合
家庭用中性洗剤を水で薄め、エレメントを約30分ひたし、その後軽くすすぎ洗いをし、自然乾燥させてください。



- 3 エレメントの清掃後、エレメントをエアクリーナ本体にまっすぐ押し込み、確実に組み付けてください。



CAUTION

清掃時は、エレメントを石やコンクリートのような硬い物でたたかないでください。

※エレメントが破損・変形すると、エンジンの性能が発揮できなくなります。

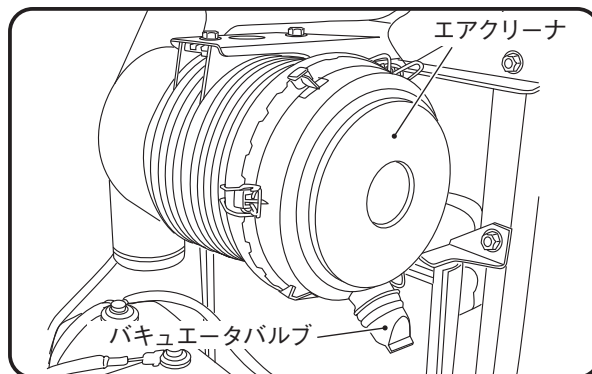
4

エアクリーナ・バキューエータバルブの清掃

作業前

100時間毎

- 1 ボンネットを開けてください。
- 2 バキューエータバルブを指でつまんで内部のゴミを落としてください。
水分があるときは、エアクリーナ内部を布でふき取ってください。



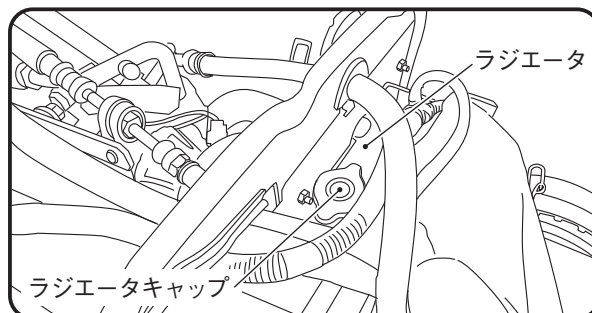
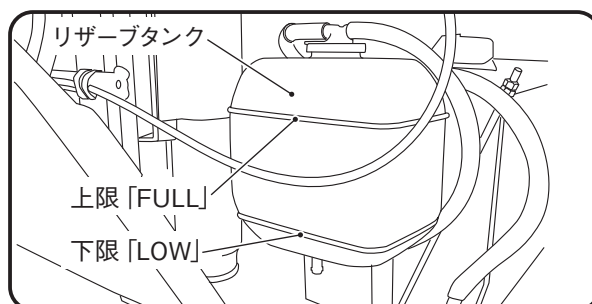
5

冷却水量の点検・補給

作業前

ラジエータにはリザーブタンクが付いています。ラジエータ本体の冷却水を適量にする役目をしています。日常の点検は、このリザーブタンクの液量を確認してください。

- 1 ボンネットを開けてください。リザーブタンク内の冷却水が、上限「FULL」と下限「LOW」の間にあることを確認してください。
- 2 冷却水が不足しているときは、リザーブタンクの「FULL」まで補給してください。
- 3 冷却水が「LOW」より低い位置にある場合は、エンジンが十分冷えてから、ラジエータキャップを外し、本体の液量も確認してください。



check

■冷却水は、上限以上は絶対入れないでください。ラジエータの性能が十分発揮できなくなるほか、冷却水が漏れる原因になります。



CAUTION

ラジエータ本体のキャップは、冷却水を点検、および交換するとき以外は開けないでください。また、キャップを開けるときは、エンジンを停止し十分冷えてから行ってください。
※守らないと、冷却水がキャップから噴き出し、やけど等の傷害事故を引き起こす場合があります。

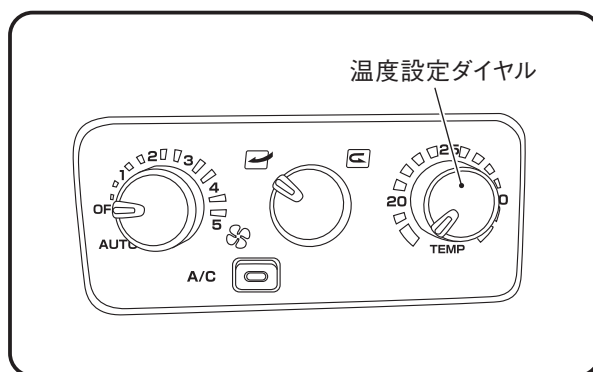
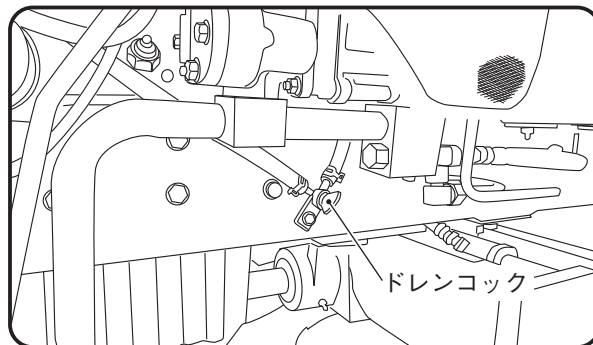
6

ラジエータ本体の洗浄・冷却水の交換

600時間毎

1回/2年

- 1 冷却水はエンジン右側のドレンコックを開けて抜きます。同時にラジエータ本体のキャップを開けると排出しやすくなります。リザーブタンクの排水は、リザーブタンクを外して行います。
- 2 水道水でラジエータ内部をよく洗浄してください。
- 3 ドレンコックを閉じて、冷却水をラジエータ内にいっぱい入れてください。リザーブタンクには吸水口より「FULL」まで入れてください。
- 4 ラジエータキャップとリザーブタンクキャップを確実に閉めてエンジンを始動し、約5分間中速回転（約1500rpm）で運転した後、エンジンを停止してください。キャブ仕様は、エアコン操作パネルの温度設定ダイヤルを右（時計回り）の暖める方向に回してエンジンを運転してください。
- 5 エンジンが十分冷えると、リザーブタンクの冷却水がラジエータ本体に吸い込まれます。リザーブタンクへ冷却水を「FULL」になるまで補給してください。



※リザーブタンクの有無は機種により異なります。

7

不凍液の使いかた

冷却水が凍結すると、エンジンを破損することがありますので不凍液（ロングライフクーラント）を混入してください。

不凍液の混合比は、不凍液メーカーや気温により異なります。不凍液の説明書にしたがってください。



8 ラジエータの清掃

作業前



CAUTION

ラジエータの清掃をするときは、必ずエンジンを停止してください。

※守らないと、回転部に巻き込まれる等の傷害事故を起こすおそれがあります。

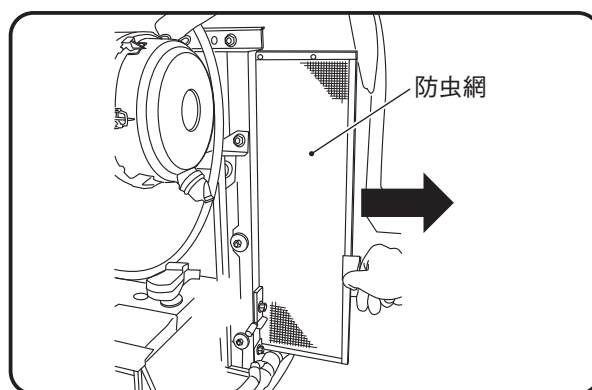
●防虫網（ネット）の清掃

水田・草地や夜間の作業をすると、ラジエータに草・ワラくず・虫等が附着して詰まることがあります。

ボンネットを開け、防虫網を引き出して清掃をしてください。

●ラジエータコアの清掃

フィンの間に入ったゴミは水道水で洗い流してください。



check

- ラジエータが目詰まりするとオーバーヒートし、オイルの消費量が増加します。
- 強い圧力水を直接ラジエータにかけると、フィンが変形することがあります。十分注意してください。
- エンジン回りの電気配線・電装品には直接水をかけないでください。

エンジン

本機

キャビン

クローラ

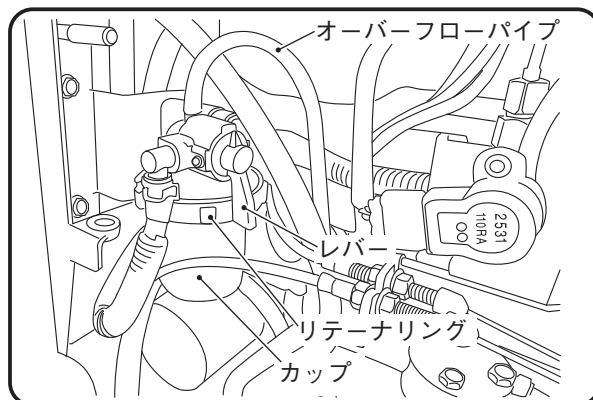
ロータリ

100時間毎清掃

400時間交換

■清掃・交換

- ① 燃料中に含まれる水・ゴミは使用していると、フィルタ内に沈殿します。日常点検では、まず沈殿しているかどうかを点検してください。
- ② 水・ゴミが沈殿している場合は、燃料フィルタのレバーを「OFF」にした後、リテーナリングを回しカップを外してください。
- ③ エレメント内部を軽油で洗浄してください。
- ④ 組み付けは、燃料漏れのないよう十分注意してください。組み付け後は、必ずエア抜きをしてください。



■エア抜き

燃料切れや燃料フィルタ・燃料ホースを取り外したときは、燃料系統のエア抜きをする必要があります。

- ① 燃料フィルタのレバーを「OFF」にして、燃料タンクに燃料を入れます。
- ② 燃料フィルタのレバーを「AIR」にして、メインスイッチを「運転・予熱」位置にします。
- ③ オーバーフローパイプより燃料の流出を確認してください。気泡が出なくなるとレバーを「ON」位置にします。

※エア抜きは機種によっては燃料フィルタや噴射ポンプにあるエア抜きボルトを弛めて行うものがあります。詳しくは取扱説明書をご参照の上、実施してください。

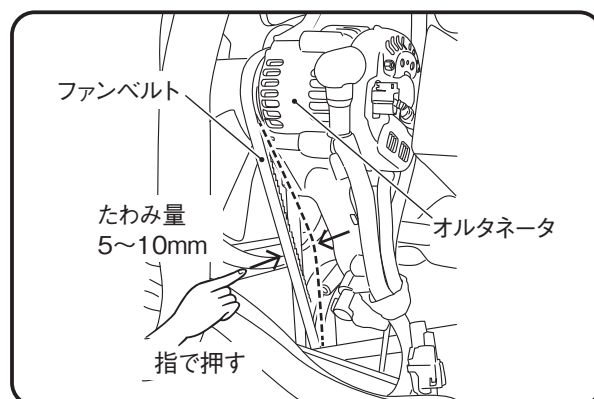
10 ファンベルト

作業前

100時間毎

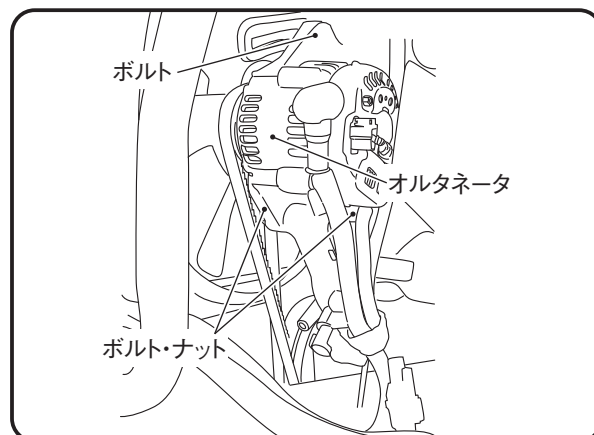
■点検

- 1 ベルトの中央部を手で押さえて、5～10mm程度たわむか、確認してください。
- 2 ベルトの張りがゆるいと、オーバーヒートや充電不足の原因となります。調整してください。
- 3 ベルトに亀裂やはがれがないか点検し、損傷があれば新品と交換してください。



■調整

- 1 オルタネータを取り付けているナットとボルトをゆるめます。
- 2 オルタネータを動かし、ベルトの張りが5～10mmたわむ程度に調整します。
- 3 調整後はナットとボルトを確実に締め付けてください。



check

■新品のファンベルトは組み付け直後、運転すると、必ず初期伸びが発生します。交換調整後約1時間運転した後、初期伸び調整を再度行ってください。この調整を行わないと、オーバーヒートや充電不足の原因になります。

エンジン

本機

キャビン

クローラ

ロータリ

**CAUTION**

ショートやスパークさせたり、タバコ等の火気を近づけないでください。また、充電は通風のよいところで行ってください。
※守らないと、引火爆発をすることがあり、事故が起きる可能性があります。

バッテリー液を身体や服につけないようにしてください。

バッテリー液（電解液）は、希硫酸で劇物です。

※失明や、やけどをするおそれがあります。もし、目・皮膚・衣服に付いたときは、直ちに多量の水で洗ってください。なお、目に入ったときは、水洗い後、医師の治療を受けてください。

ブースターケーブル使用時には、十分注意して取り扱ってください。

※注意を怠ると、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

取り扱い

- (1) 気温が低下すると、バッテリーの性能も低下します。冬期は特にバッテリーの管理に注意してください。
- (2) バッテリーは使用しなくても自己放電しますので、補充電を行ってください。
 - 夏期…1ヶ月ごと
 - 冬期…2ヶ月ごと
- (3) トラクタを長期格納する場合は、バッテリーを外し日光の当たらない乾燥した場所に保存してください。トラクタに取り付けたまま保管しなければならないときは、必ず、アースを外してください。アースを外したときは、その旨をメモ書きしてトラクタに貼り付けておくとう便利です。
- (4) 新品のバッテリーと交換する場合は、必ず取説に指定した型式のバッテリーを使用してください。

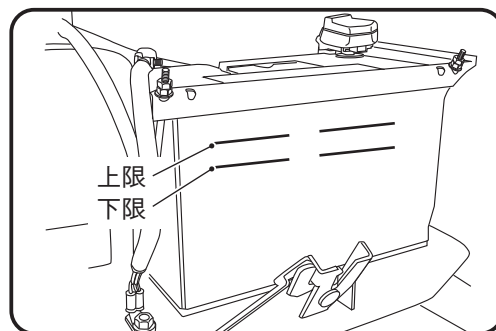
check

- バッテリーは必ず車体から取り外して充電してください。電装品の損傷の他に配線等を傷めることがあります。
- バッテリーの急速充電はバッテリーの寿命を短くしますから、できるだけ避けてください。
- 充電は、バッテリーの⊕を充電器の⊕に、⊖を⊖にそれぞれ接続して、普通の充電法で行ってください。
- バッテリーを外し、再度取り付けるときには、バッテリーの⊕⊖のコードを元どおりに配線し、回りに接触しないように締め付けてください。
- バッテリーコード（端子）を取り外すときは、⊖コードを先に外します。バッテリーコードを取り付けるときは、⊕コードを先に取り付けます。これを怠ると、ショートして火花が飛んだりします。
- バッテリー⊖端子を外す時、ボディアース部を外してはいけません。バッテリー端子部を外してください。

点検

- (1) バッテリー液は使っているうちに蒸発して、減少します。
- (2) バッテリーの前面に2本の線（レベル）があり、その間に液面があれば正常です。

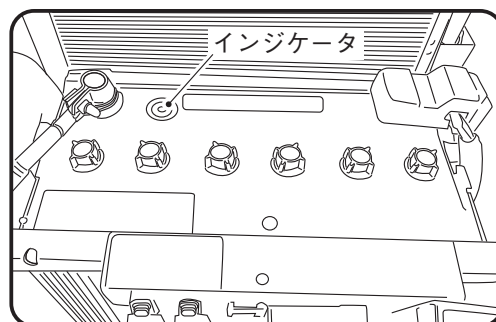
※バッテリー液面チェックは100時間毎、または1回/年です。
※バッテリー液が減った時は精製水を補給してください。



check

- バッテリーの残容量と液量が点検できるインジケータが装備されています。トラクタを水平な場所に置き、インジケータの色によって判定できます。
- ただし、インジケータは特定のセルの状態を示すもので、あくまでも「目安」としてください。

インジケータ	判定・処置
 青	正常
 赤	充電不足 補充電をしてください
 白	バッテリー液不足 精製水を補給してください



コモンレールエンジンの場合の取り扱い

コモンレール仕様エンジンには高電圧、また高圧力の燃料が通る部分があります。

- 清掃や点検時、エンジンの電気部品・配線にさわる場合は、メインスイッチを「停止」にし、3分程度たってからバッテリーの⊖コードを外して行ってください。
- エンジンの高圧力の燃料が通る部品は分解や修理を行わないでください。また、周辺のボルト・ナット類もゆるめないでください。高圧力の燃料が通るのは高圧ポンプからインジェクタの間です。
- エンジンの点検・修理は、必ず「お買いあげ先」にご相談ください。
※守らないと、感電したり高圧燃料のもれによる傷害事故を引き起こすおそれがあります。
※守らないと、エンジンの故障の原因となります。

コモンレールシステムは微細なゴミもトラブルの元になります。フィルタ交換等をご購入先での交換を強くお勧めします。

高圧側の配管類は分解禁止です。誤って取り外した場合は「お買いあげ先」で新品と交換してください。





Ⅱ. 本機編

1 ミッションオイル

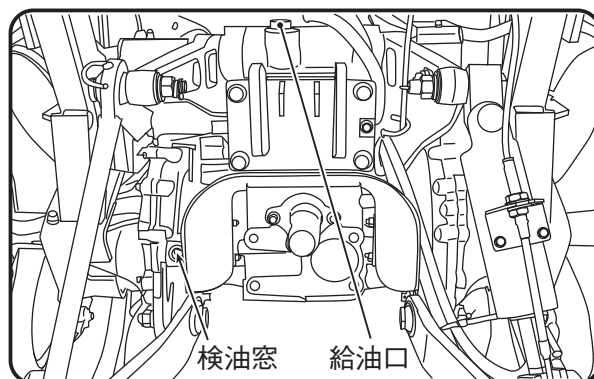
初期点検後200時間毎

■点検・補給

- (1) 平たんな場所へトラクタを置き、オイルレベルが検油窓の範囲にあるかを調べます。
- (2) オイルレベルが検油窓以下の場合は補給が必要です。

check

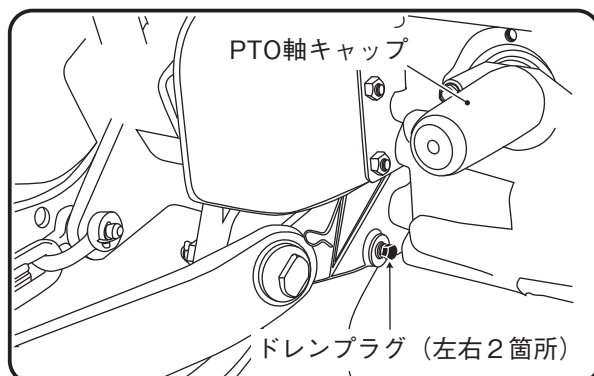
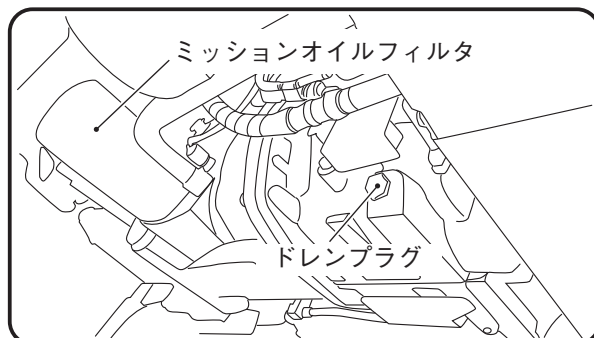
- ミッションオイルは検油窓を超えないようにしてください。
- ミッションオイルはサセキU・T・Hオイルを使用してください。



■交換

- 1 ドレンプラグを外して、オイルを排出します。
- 2 給油口からミッションオイルを規定量入れてください。

※ミッションオイルやミッションオイルフィルタ(次頁)を交換すると油圧回路のエア抜きが必要な機種があります。取扱説明書に基づき実施してください。



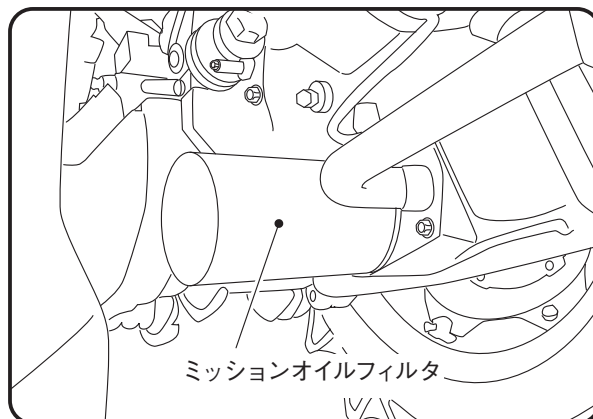
2 ミッションオイルフィルタの交換

初期点検後200時間毎

ミッションオイルは油圧オイルと兼用です。
ミッションオイルが汚れてくると、油圧系統の故障の原因となります。

ミッションオイルの交換と共にミッションオイルフィルタも定期的に交換してください。

- 1 ドレンプラグを外して、ミッションオイルを抜いてください。
- 2 市販のフィルタレンチでミッションオイルフィルタを取り外してください。
- 3 新しいフィルタのOリングにオイルを薄く塗布してから、手で確実にねじ込んでください。シール面のゴムパッキンが接触してから、約2/3回転、締め付けてください。
- 4 給油口からミッションオイルを規定量入れてください。



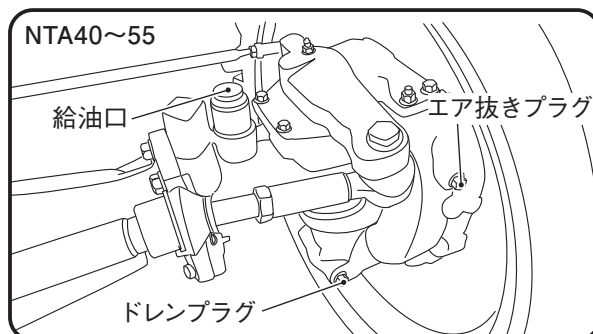
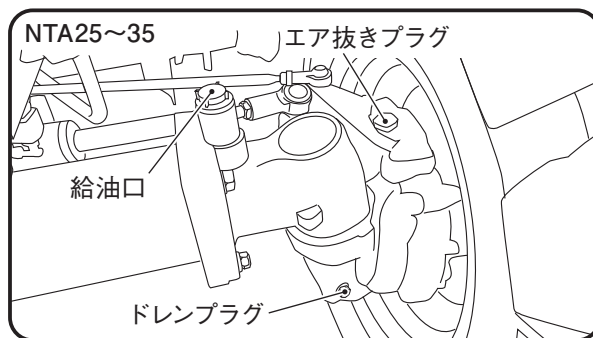
3 フロントアクスルのオイル

■点検 200時間毎

給油プラグを外し、穴から中の軸を見て、軸の中心までオイルが入っているかを調べます。少ない場合はオイルを補充してください。

■交換 600時間毎

- 1 左右のドレンプラグを外してオイルを抜いてください。
- 2 エア抜きプラグを確実に閉めてください。
- 3 給油口からミッションオイルを規定量入れてください



4 ブレーキペダルの遊び

200時間毎



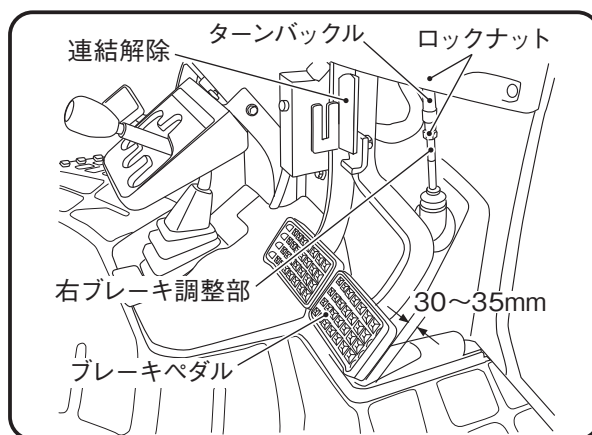
CAUTION

調整時、左右のブレーキペダルの踏み込み量を必ず合せてください。

※守らないと、ブレーキが片ぎきになり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

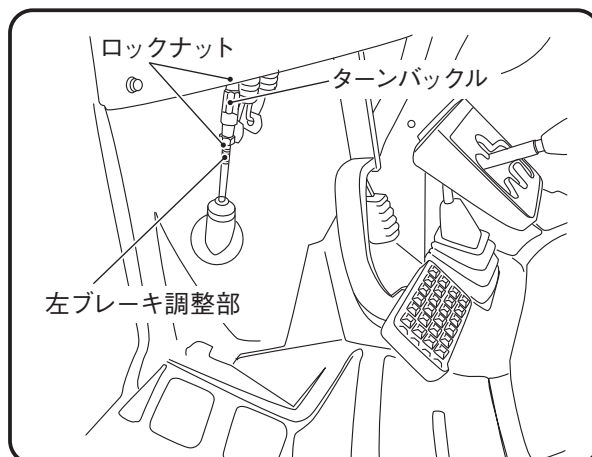
■点検

左右のブレーキペダルの遊び量が、30～35mmあるか、および、ブレーキの踏み込み量が左右で均一になっているかを確認してください。



■調整

- 1 パーキングブレーキを解除し、左右ブレーキペダルの連結を解除します。
- 2 ダッシュパネル（右）と（左）にある上下2箇所のブレーキロッドのロックナットをゆるめます。
- 3 ターンバックルを回してブレーキペダルの遊び量が30～35mmとなり、踏み込み量が左右で均一になるように調整してください。
- 4 上下2箇所のロックナットを確実に締め付けてください。
- 5 調整後、パーキングブレーキが確実にかかること、および、ブレーキが正常に動作することを確認してください。



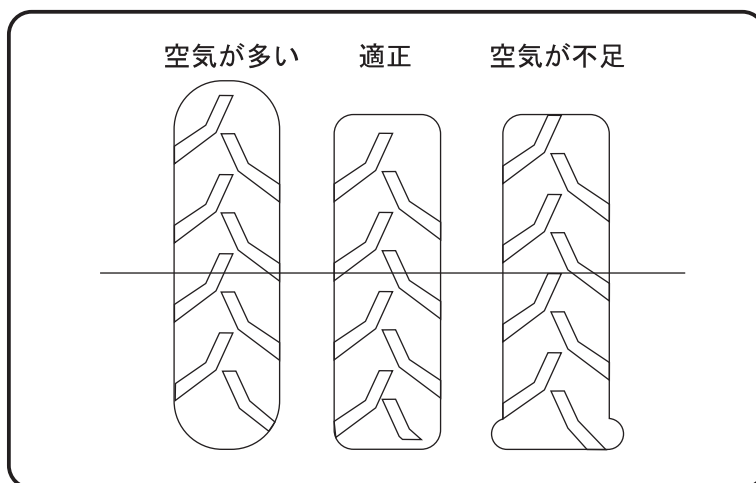
5

タイヤの空気圧

作業前

200時間毎

前輪・後輪の空気圧が適正であるかを調べます。外観上の目安は下図のとおりです。
タイヤの適正空気圧はタイヤのサイズで異なります。適正值はその機種の取扱説明書をご参照ください。



check

- タイヤに傷があり、その傷がコード（糸）に達している場合は、使用しないでください。
※タイヤ破裂のおそれがあります。
- タイヤの空気圧は、取扱説明書に記載されている規定圧を必ず守ってください。
※空気の入れ過ぎは、タイヤの破裂のおそれがあり死傷事故を引き起こす原因になります。
- タイヤ・チューブ・リム等の交換修理は、必ず「お買いあげ先」にご相談ください。
※法律で特別教育を受けた人が行うように定められています。

エンジン

本機

キャビン

クローラ

ロータリ



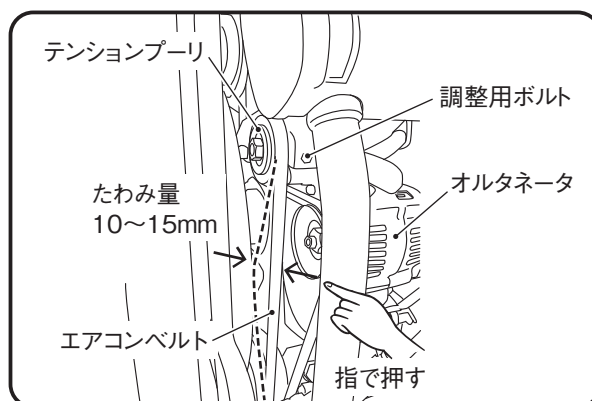
Ⅲ. キャビン仕様編

1 エアコンベルト

200時間毎

■点検

ベルトの中央部を手で押さえて10～15mm程度たわむか、確認してください。ベルトの張りがゆるいと、エアコンが作動しません。ベルトに亀裂やはがれがないか点検し、損傷があれば新品と交換してください。



■調整

- 1 テンションプーリを締め付けているナットをゆるめてください。
- 2 ボルトでテンションプーリを動かし、ベルトの張りが10～15mmたわむ程度に調整します。
- 3 調整後は、ナットとボルトを確実に締め付けてください。

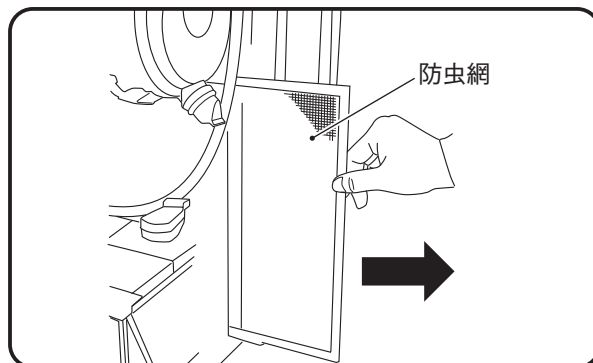
check

- 新品のエアコンベルトは組み付け直後運転すると、必ず初期伸びが発生します。ベルトを交換した場合は、交換調整後約1時間運転した後に、初期伸び調整を再度行ってください。この調整を行わないと、エアコンが効かなくなります。
- 必ず指定ベルトを使用しベルトの張りすぎに注意してください。指定ベルト以外を組み付けたり、張りすぎると、ベルト切れすることがあります。

2 エアコンコンデンサの点検

200時間毎

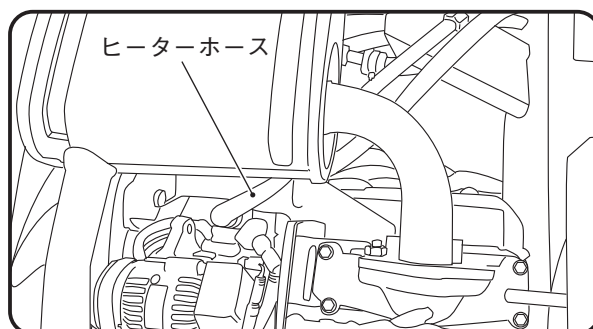
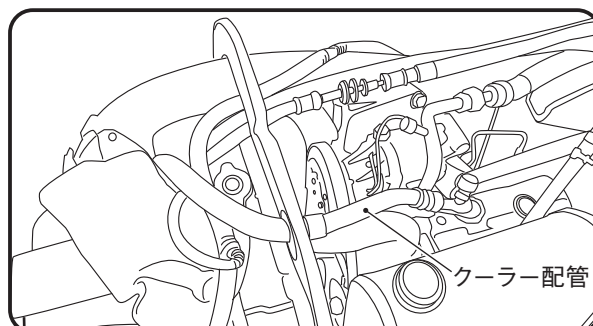
エアコンコンデンサに付着した泥やゴミは防虫網を取り外して水道水で洗い落としてください。フィンのつぶれはマイナスドライバー等で修理してください。



3 エアコンホース・パイプの点検

1回/1年

エアコンホース・パイプに、ひび・亀裂がないか点検してください。異常がある場合は「お買いあげ先」へ連絡してください。



[フロン排出抑制法]

平成27年4月1日より「フロン排出規制法」の施行により、エアコンの「簡易点検の実施と点検記録の保管」が義務化されました。3ヶ月に1回の点検と記録・保管が必要です。

- ※1 詳しくは環境省ホームページ (http://www.env.go.jp/earth/ozone/cfc/law/kaisei_h27/)、中セキホームページ (<http://www.iseki.co.jp/products/freon/>) を参照ください。
- ※2 点検記録票は「お買いあげ先」または中セキホームページから入手ください。
- ※3 フロン漏れ等、不具合時は「お買いあげ先」へ連絡ください。(登録業者以外フロンの充填・回収・廃棄はできません)

4

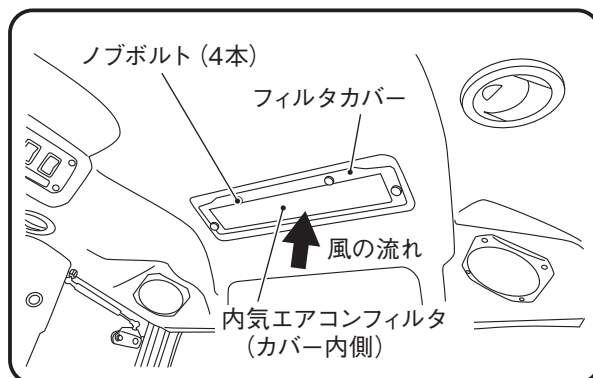
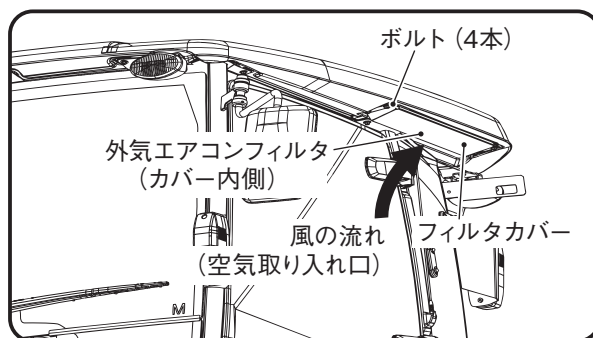
エアコンフィルタの点検・清掃

作業前

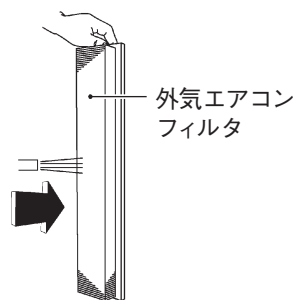
1回/月

エアコンフィルタの点検・清掃は、使用条件によって異なりますが、1ヶ月に1回程度実施してください。清掃を怠ると、エアコン風量の低下やエアコン本体の故障の原因となります。

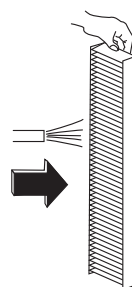
- 1 ボルト（4本）を取り外し、ルーフ外左側後方のフィルタカバーを外します。
- 2 外気エアコンフィルタを取り出してください。
- 3 ノブボルト（4本）を取り外し、キャブ室内上部後方のフィルタカバーを外します。
- 4 内気エアコンフィルタを取り出してください。
- 5 内気・外気エアコンフィルタは、風の流れと逆方向より、空気を吹付けて清掃してください。
- 6 清掃後、元通りに組みつけてください。



外気エアコンフィルタ



内気エアコンフィルタ





IV. クローラ仕様編

1 ゴムクローラの張り調整

新車初期点検

100時間毎



CAUTION

前進走行後停止し、パーキングブレーキをかけてゴムクローラの張りを確認してください。張りが適正でない場合は調整してください。

※ゴムクローラの張りがゆるいまま走行すると、走行中に脱輪し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。また、張り過ぎは遊輪にクローラの異常な張力が掛かり遊輪を破損するおそれがあります。

■点検

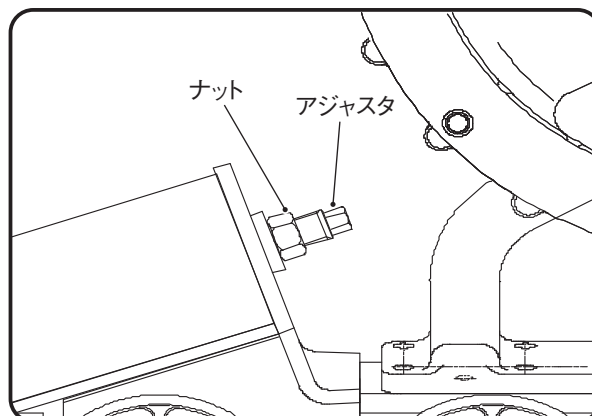
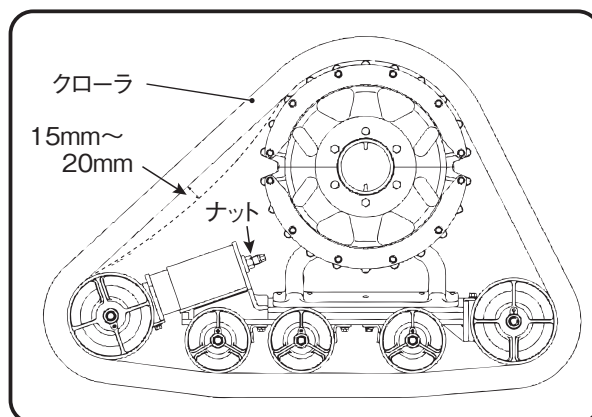
クローラのたわみが20～25kgfで押したとき15～20mmの範囲にあるか確認してください。

■調整

- 1 ナットをゆるめます（対辺32）。
- 2 工具を使用しアジャスターを回し（対辺17）、クローラのたわみが20～25kgfで押した時、15～20mmになるように調整します。
- 3 調整後はナットを元どおりに締め付けます。

check

■クローラの初期伸びについて
新車時、および新品のクローラは初期運転するとなじみます。初期50時間運転後は必ず張り調整を行ってください。



2

遊輪・転輪の点検

200時間毎点検

400時間毎交換



CAUTION

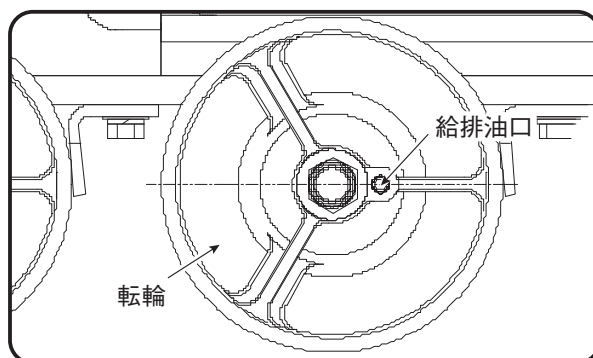
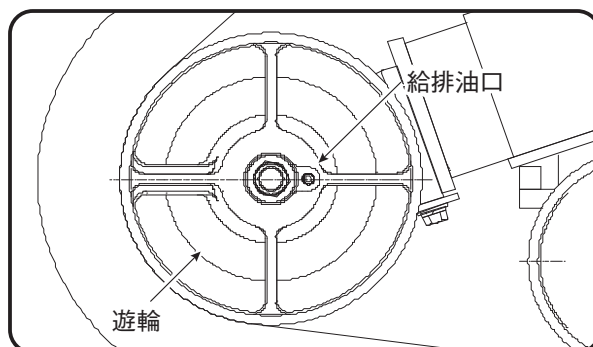
遊輪や転輪にオイル漏れがある場合は、お買いあげ先で点検を受けてください。放置するとオイル切れをおこし遊輪や転輪部が破損するおそれがあります。

■点検

給排油口を車輪中心高さに合わせ、ドレンをはずしオイルが出てくるか確認してください。出てこない場合は「お買いあげ先」にて給油してください。

check

■オイル量の点検や交換はお買いあげ先での点検・交換を強く推奨します。

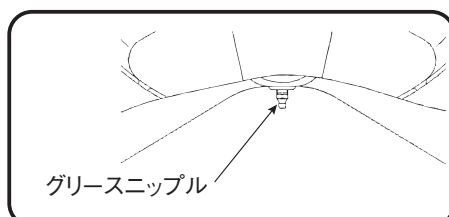


3

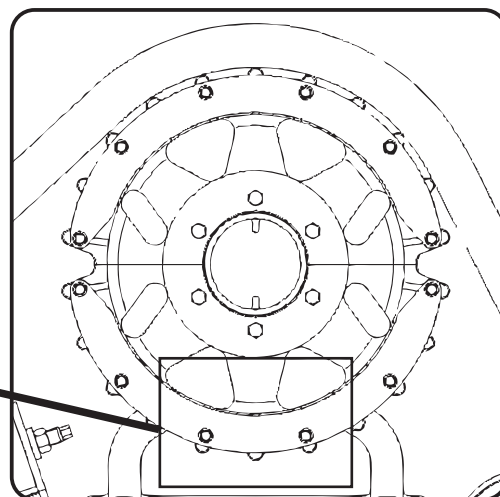
揺動支点部のグリース注入

50時間毎

揺動支点のケース部にあるグリースニップルにグリースを注入してください。
(シャフトからグリースが湧き出すまで)



リチウム系の一般グリースを使用



作業前

**CAUTION**

雪や赤土などが遊輪・転輪に巻き付くような作業では、必ずスクレーパを装着し、遊輪・転輪とスクレーパの隙間の確認・調整をしてください。

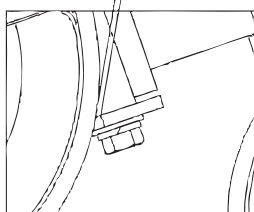
※守らないと、遊輪・転輪部に雪や赤土などが巻き付き、クローラに異常な張力がかかり、遊輪・転輪部が破損し走行できなくなるおそれがあります。

■スクレーパの調整

遊輪・転輪とスクレーパの隙間が下図寸法となるように、スクレーパ長穴部を動かし調整してください。

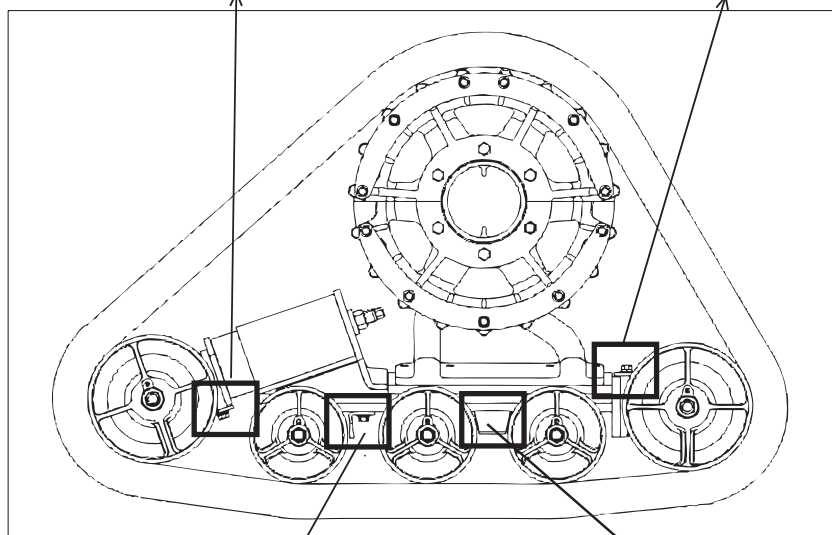
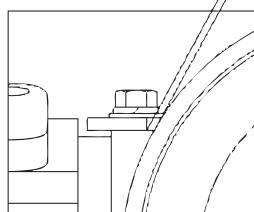
〈前遊輪スクレーパ〉

隙間=1~3mm



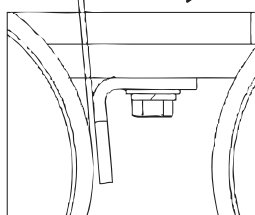
〈後遊輪スクレーパ〉

隙間=1~3mm



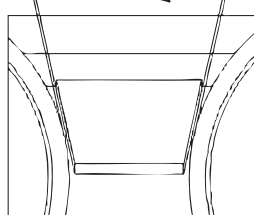
〈転輪スクレーパ〉

隙間=2~4mm



隙間=2~4mm

隙間=2~4mm



〈転輪スクレーパ〉
機種により有無が
あります



V. ロータリ編

1 ギヤケース

初期点検整備

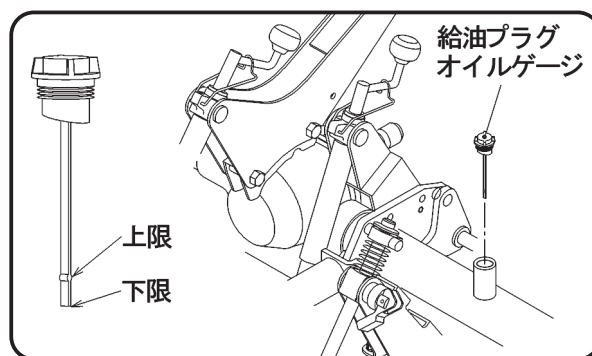
100時間毎

■油量点検のしかた

ロータリを降ろして給油プラグを抜き、オイルゲージの先端をきれいにふいて、差込んでから再び抜き「下限」以上オイルがあるか調べます。下限以下の場合は補給しますが、上限以上には入れないでください。点検後は、給油プラグを元通りにしてください。

check

- 点検するときは、ロータリをトラクタに装着したまま水平な地面において行ってください。傾いていると、正確な量を示さないことがあります。
- オイルゲージはネジ込まないで測定してください。



■オイル交換のしかた 400時間毎

1 ギヤケースとチェンケースのそれぞれのドレンプラグを外してオイルを抜きます。

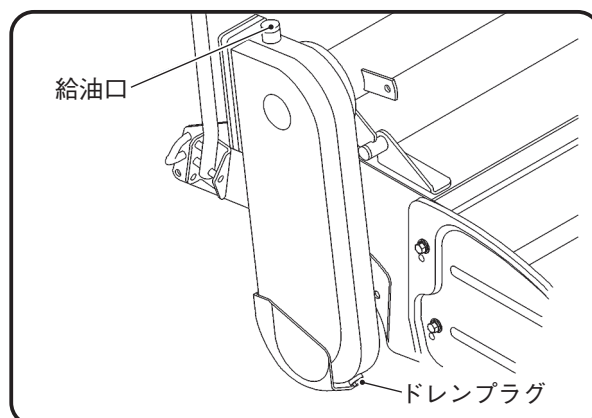
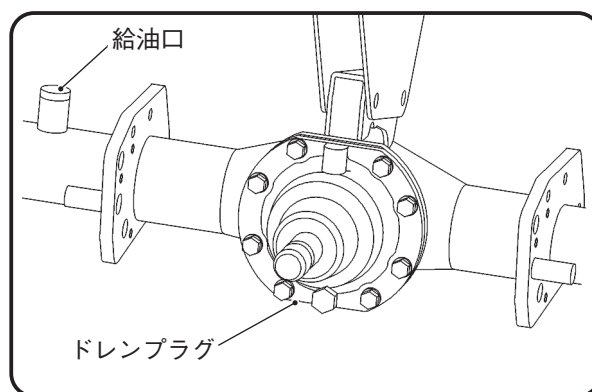
2 オイルが抜けたらドレンプラグをしっかりと締め付けてください。

3 オイルをそれぞれの給油口より規定量を入れてください。

check

- オイル交換時の規定量は完全にオイルを抜き出した場合のオイル量です。オイルゲージで点検し、ゲージ上限以上には入れないでください。
- 規定量は取扱説明書で確認してください。

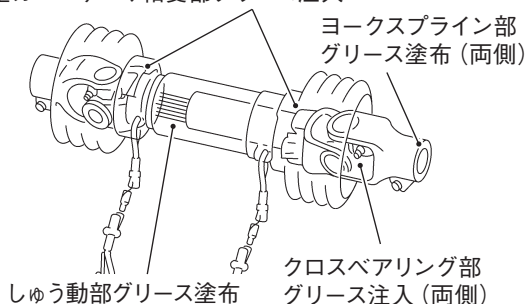
4 給油後は、給油口を締めてください。



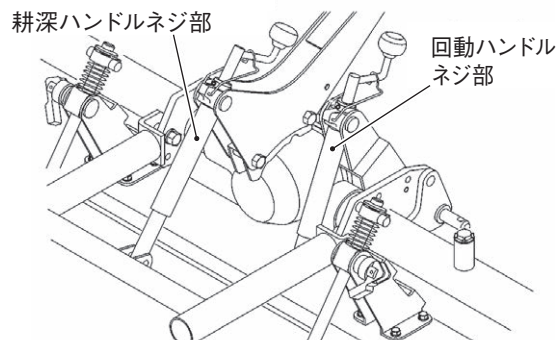
2 グリースの補給

ユニバーサルジョイント

安全カバーすべり軸受部グリース注入

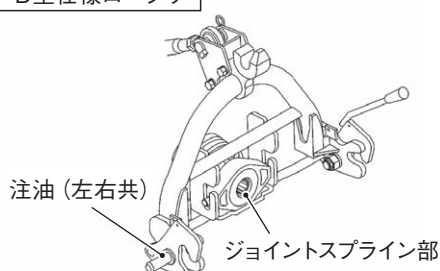


耕深ハンドル・回動ハンドル部
(回動ハンドルの無い機種も有)

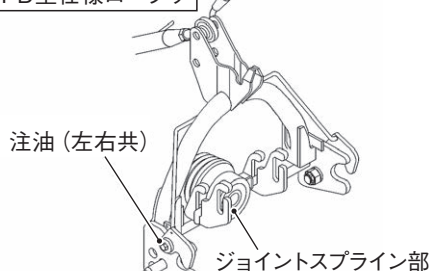


クイックジョイント・スプライン部

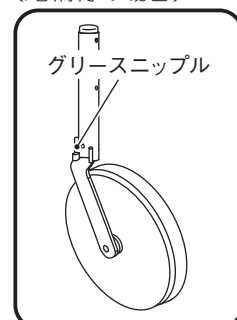
D型仕様ロータリ



PD型仕様ロータリ

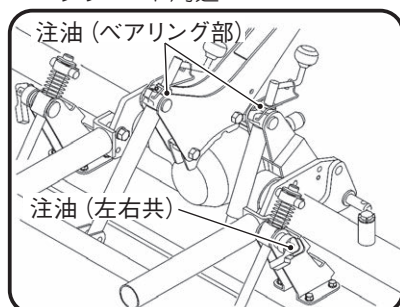


尾輪グリースニップル
(尾輪付の場合)

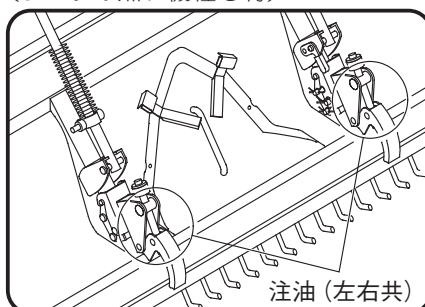


3 注油 (クイックヒッチ部は項目2クイックジョイント・スプライン部参照)

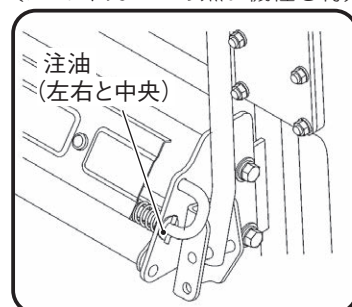
ロータリマスト周辺



レベラ支点部・回転部
(レベラの無い機種も有)



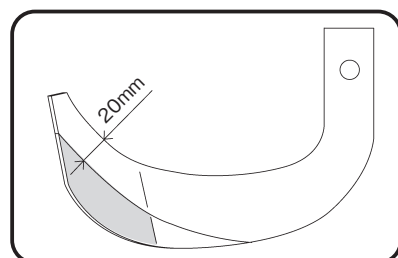
フロントカバー回転部
(フロントカバーの無い機種も有)



4 爪の交換時期

耕うん爪が摩耗すると反転性・砕土性が悪くなり、十分な性能が発揮されません。(曲ったり、折れたりしてからでは遅すぎます。) 効率の良い耕うん作業をしていただくために、耕うん爪は早目にお取り替えください。耕うん爪は必ず回転径の正しい「中セキ純正部品」を使用してください。

図のように摩耗したら、新しい耕うん爪と交換してください。



安全に作業を行っていただくために

点検・整備をするときは、明るく、地面が平たんで硬く、広い場所で行ってください。
※守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

点検・整備をするときは、必ずエンジンを停止し、パーキングブレーキをかけ、油圧降下速度調節つまみを回して油圧をロックしてから行ってください。

※守らないと、手や衣服が巻き込まれたり、はさまれたりして傷害事故を引き起こすことがあります。

過熱部分は冷えてから行ってください。
エンジンが停止後すぐに、点検・整備をしないでください。エンジン等の過熱部分が完全に冷えてから行ってください。
ラジエータキャップおよびリザーブタンクキャップは、エンジン運転中および停止直後に開けないでください。運転停止後よく冷えてから注意して開けてください。
※守らないと、熱湯が噴出してやけどをするおそれがあります。

屋内でエンジンを始動する場合は、十分に換気をしてください。

閉め切った屋内等ではエンジンを始動しないでください。

※守らないと、排気ガスによる一酸化炭素中毒を起こし、死亡事故にいたるおそれがあります。

点検・整備は適正な工具を正しく使用して行ってください。

※守らないと、整備中や整備不良による傷害事故を引き起こすことがあります。



廃棄物処理について

- 機械から廃液を抜く場合は、十分な容量がある容器に受けてください。
- 地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。
- 廃液、燃料、冷却水（不凍液）、溶剤フィルタ、バッテリー、ゴム類その他の有害物を廃棄、又は焼却するときは、購入先、又は産業廃棄物処理業者等に相談して、所定の規則に従って処理してください。

※廃棄物をみだりに、廃却、焼却すると環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。

井関農機株式会社

技術サービスセンター

〒300-2346

茨城県つくばみらい市青木560

TEL. 0297-58-5131